

9月 10 日(月)

## サンフランシスコ国際空港視察

10:00～10:30

ジャクソン・ウォン サンフランシスコ国際空港  
C O Oに關市長、足高議長が挨拶をした後、懇談を  
行い、記念品を贈った。

サンフランシスコ国際空港は、サンフランシスコ  
観光局とともに、観光プロモーションを行っており、  
2007年1月に大阪で観光PRを行っている。



### 【懇談内容】

近年、航空機を利用したサンフランシスコ・ベイ  
エリアへの来訪者数は順調に伸びてきており、特に、  
サンフランシスコ国際空港は同エリアの中で最大の  
シェアを占めている。またベイエリアには、オーク  
ランド国際空港、サンノゼ国際空港といった中規模  
空港が存在し、特にオークランド空港は、当初、サ  
ンフランシスコ国際空港の補助的な役割でしかなか  
ったが、近年、サウスウエストやジェットブルーと

いった格安航空会社が乗り入れてからは、急速に搭乗者及び貨物取扱量を伸ばし、サンフランシスコ空港を脅かす存在となっている。また、サンノゼ空港についても、シリコンバレーの発展と共に利用客数・貨物量とも大きく増加している。

● サンフランシスコ国際空港は、

米国西海岸における中核的な空港であり、特にユナイテッド航空のハブ空港として発展してきている。運営は、サンフランシスコ市がおこなっている。

2000年6月には、新しい国際線ターミナルが開業し、航空機処理能力及び旅客取扱い能力が著しく増大した。このターミナルは、北ウィングと南ウィングの2つからなり、入国審査ブースや税関窓口もそれぞれのターミナルに設置され、多くの旅客者に対応することができるようになり、2005年の乗客数は約3,280万人、取扱貨物量は約59万トンに達している。

サンフランシスコ空港の運用上の問題として、濃霧による遅延問題があげられている。そのため、解決策として、沖合への新滑走路建設などが検討されていたが、環境に与える影響や資金調達の面から、同検討は進んでいない状況である。一方で、視界不良時においても、現在の25%増となるおよそ38便（1時間）が発着可能となるシステム（PRM/SOIA）の導入の検討が進んでいる。

● オークランド国際空港は、

サンフランシスコ空港の補完的な役割を持つ空港として、1927年に開港した後、専ら国内線及びカナダ、メキシコ方面への近距離国際線用の空港として整備拡充された。1994年には、サウスウエスト航空の乗員基地となり、旅客者が伸び始め、1997年からアムステルダム、ブリュッセル、タヒチ線等の長距離国際線も乗り入れ始めた。着陸料が安価なため低価格航空会社等が乗り入れを拡大し、2005年の乗客

数は約 1、442 万人、輸送貨物量は約 67 万トンに達し、1999 年以降、6 年連続して乗客数及び貨物量が増加している。

大阪ベイエリアにも、関西国際空港、伊丹空港、神戸空港と 3 つの空港があるので、同じような状況の中にある、特に 2 つの空港の役割分担などの情報収集を行った。